

3. 若年者における就学・就業行動の家族人口学的要因 小島 宏 (人口問題研究所)

4. 息子の再分配

—養子慣行の歴史人口学的分析 落合恵美子・黒須里美 (国際日本文化研究センター)

また、この前日の11月4日、龍谷大学にて第4回アジア社会研究会研究大会が開かれた。「現代アジアにおける都市、農村の構造連関」を全体共通テーマとし、中国、タイ、フィリピンの3つの部会にわかれ、人口移動が比較検討された。中国部会は以下のとおり。

1. 小城镇—都市・農村の結節点 田中重好
2. 地域社会の構造と人口移動 佐々木衛
3. 現代中国の都市・農村の構造連関 陸 学芸

なお、発表者の陸学芸は中国社会科学院社会学研究所所长・中国社会学会副会長であり、日中社会学会の11月12日にも発表。明年11月には、天安門事件で延期されてきた「第6回アジア社会学会」が北京で開かれる予定である。(若林敬子記)

経済統計学会第38回全国総会

経済統計学会第38回全国総会は、1994年11月9日(水)から10日(木)の2日間、静岡大学を開催校とし、リゾート伊豆(静岡県・東伊豆町)で行われた。SNA、家計調査、「日本人の国民性調査」等16の報告があり、そのうち人口に関連する報告は以下のとおりである。

報告者	論 題	予定討論者
廣嶋清志 (厚生省人口問題研究所)	「高齢者の世帯状態の将来推計：結果とその分析」	藤岡光夫 (島根大学)
渡邊吉利 (厚生省人口問題研究所)	「未婚率の地域的变化の動向—SMAMおよび生涯未婚率による観察—」	藤岡光夫 (島根大学)
坂田幸繁 (中央大学)	「都道府県間人口移動率の予測について」	西村善博 (大分大学)

なお、今回はじめて「ジェンダー統計の諸問題」について特集が生まれ、以下の4報告が行われた。

報告者	論 題	予定討論者
伊藤陽一 (法政大学)	「ジェンダー統計—現状と課題—」	山田 満 (高崎商科短期大学)
杉橋やよい (法政大学大学院)	「コンパラブル・ワースの職務評価と統計利用—男女別格差是正に向けて—」	杉森滉一 (中央大学)
岩崎俊夫 (立教大学)	「ジェンダー視点から見た経済活動人口の概念と構成」	福島利夫 (大阪経済法科大学)
中村安子 (大東文化大学)	「アメリカ合衆国における女性と統計」	山本千鶴子 (厚生省人口問題研究所)

(山本千鶴子記)

人文地理学会

1994年度の人文地理学会大会は1994年11月12日～14日、奈良女子大学(奈良県奈良市)にて開催された。人口研究に関連して、以下のような発表があった。

- ・東京都区部内における公営住宅居住者の年齢構成の変化 由井義通 (立命館大学・文)

・高齢者の生活空間と定住意志 — 埼玉県越谷市の事例 —

田原裕子 (東京大学・院)

川口太郎 (東京大学)

荒井良雄 (東京大学)

・港北ニュータウンにおける住民の活動とコミュニティ形成

— ジェンダーの視点から —

影山穂波 (お茶の水女子大学・院)

・1985年～1990年間にける都道府県間人口移動パターン

— 経済的要因からの分析を中心に —

磯田則彦 (広島大学・院)

・わが国大都市地域における年少人口減少と小学校の立地変化

酒川 茂 (広島女子大学)

・南米出身日系人の居住地移動に関する一考察

中村理恵 (群馬県立榛名高等学校/群馬大学・院)

今回の大会でも地理学から人口研究への様々なアプローチが示された。従来からの国内人口移動の分析に加え、高齢者やジェンダーの視点を導入した研究、国際人口移動の実証研究などが近年定着しつつある。また、立命館大の由井報告は、地理学研究でまだ十分に用いられていないコーホートの視点からの研究の試みである。

(中川聡史記)

第29回日本都市計画学会学術研究発表会

日本都市計画学会の第29回学術研究発表会が、1994年11月21日(月)から23日(水)までの3日間、早稲田大学国際会議場において開催された。日本都市計画学会は年1度の大会で審査論文を発表するという形態をとっており、今年度は220編の応募論文の内、審査を通過した120編の発表が行なわれた。

今年度は、以下のような人口と関連の深い研究が数多くみられた。

1. 阿部宏史「地域間雇用成長格差の長期的推移と地域人口変動」
2. 柏谷増男他「コーホート法と住宅ストック増減データとを用いた大都市圏内地区別年齢階級別人口推定法」
3. 谷武・三宅醇「世帯主の年齢階級別主世帯数の予測に関する研究—47都道府県の世帯主率の比較による分析—」
4. 今野速太他「高齢者のモビリティ確保における送迎交通の実態」
5. 渡辺万記子他「高齢者介護サービスの需要推計モデル—町田市を対象とした事例分析—」
6. 野村知子「老後の自立を支援する食事サービスに資するコミュニティ施設活用の可能性」
7. 児玉善郎「大都市インナーエリアにおける特養ホーム入所者の入所前の居住実態に関する調査分析」
8. 瀬戸口剛他「公営住宅団地と周辺住宅地の住み替えに関する研究」
9. 小林千穂子他「サービス・人口密度・通圏手段・利用者意識からみた保育園の圏域と機能拡大—大都市周辺市街地における地域センターとしての保育園に関する研究—」
10. 石田東生他「世帯における利用特性からみた自動車の分類に関する一考察」

最初の3論文は直接的に人口研の研究と関連するテーマを扱っている。すなわち、わが国の人口分布変動、地域人口推計手法、都道府県別世帯数推計手法であり、われわれにとって大いに参考になる。4～7は高齢者に関連する都市計画的課題を扱った研究であり、介護サービスや特養ホームといった厚生省の施策を対象とした論文もみられた。その他は、住宅と住み替えに関する研究、保育園の立地・機能に関する研究、世帯と自動車保有に関する研究である。これら人口関連の研究も、計画的・政策的観点から人口研究に新しい視角を提供してくれるものであり、それぞれ興味深い。

(大江守之記)

第8回応用地域科学研究会研究発表大会

応用地域科学研究会 (ARSC: Applied Regional Science Conference) の第8回研究発表大会が12月3日、